

# 発達障害の可能性のある子どもたちの つまずきに応じた指導

司城紀代美・栃木市教育委員会・栃木市立栃木中央小学校

宇都宮大学共同教育学部教育実践紀要 第7号 別刷

2020年8月31日



# 発達障害の可能性のある子どもたちの つまずきに応じた指導<sup>†</sup>

司城紀代美\*・栃木市教育委員会\*\*・栃木市立栃木中央小学校\*\*  
宇都宮大学大学院教育学研究科\*

栃木市では、文部科学省より「発達障害の可能性のある児童生徒に対する教科指導法事業」の委託を受け、子どもたちが「できた」「わかった」を実感できる「ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくり」の実現に向けて平成30年度から令和元年度にかけて、研究を行ってきた。

本稿では、子どもの特性把握のために活用した「すくすくUDシート」と普及・啓発のための実践事例集を示す。研究の成果としては、教員の意識改革、児童の変容等が見られた。取り組みをさらに継続し、広げていくことが必要であるといえる。

キーワード：発達障害，教科指導，授業研究

## 1. はじめに

栃木市では、文部科学省より「発達障害の可能性のある児童生徒に対する教科指導法事業」の委託を受け、子どもたちが「できた」「わかった」を実感できる「ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくり」の実現に向けて平成30年度から令和元年度にかけて、研究を行ってきた。

この研究においては、発達の特徴は一人一人異なるものであり、各教科の学習場面によって学び方も様々であることから、児童生徒の多様な特性に応じた具体的な指導事例を蓄積してきた。

本稿では、子どもの特性把握のために活用した「すくすくUDシート」と実践事例を示し、研究の成果と課題を整理することとする。

## 2. 実態把握のツール「すくすくUDシート」

すくすくUDシートは、子どもの発達や認知の特

徴と教科の指導の中でのポイントとを結びつけて授業に活用できるようにしたものである。「すくすくシートUD」の特徴の中から3点を挙げて示す。

### (1) 具体的な姿で示される児童生徒の特徴

発達の特徴では、チェックリストや各種テストの結果に加えて、学校生活、授業場面の中で見られる具体的な子どもの姿に着目した。その際、苦手なことだけでなく、得意なこと、その子の強みになること、支援があるとできること等を多面的に記載した。以下は、読み書きを苦手とする小学1年生児童の特徴を示した例である。○は得意なこと、●は苦手なこと、△は支援があるとできることである。

#### 特徴(弱み・強み)

- キャラクターの絵を忠実に写すことやイラストを描くなど身体的な活動はとでも得意。
- 興味、関心のあるテーマや自分が知っていることについては、意欲的に取り組むことができる。
- 文章から内容を理解することなど読み取りは、問題を言い換えるなどの支援がないと、自力では難しい。
- 集中力が持続せずに、話を最後まで聞いたり、一つの作業を終わりで縛りたりすることは難しい。
- △縦書きなどの書く練習について、なぞる部分はみ出してしまい、大きさや筆圧の調節が難しいが、励ましの声掛けがあると意識して書くことができる。
- 聞くことについては、集中が強れやすいため、注意して聞くことが難しく、聞き逃しが多い。
- 発音量は多く、考えを詰めることなく発表するなど、話すことにおいては自信を持っている。

図1 発達の特徴(弱み・強み)の例

### (2) 教科や単元に即した子どもの姿の予想

子どもがつまづく場面、うまくいく場面を予想してシートに書き込むこととした。教科の内容と結び

<sup>†</sup> Kiyomi SHIJO\*, Tochigi City Board of Education\*\* and Tochigi Chuo Elementary School\*\*: Teaching in Accordance with Learning Difficulties of Children with Possible Developmental Disabilities

Keywords : Developmental Disabilities, Subject Teaching, Lesson Study

\* Graduate School of Education, Utsunomiya University

(連絡先: shijo@cc.utsunomiya-u.ac.jp)

付けて考えることでより具体的な子どもの姿を予想することにつながる。また、ここでも、つまずきの場面だけでなく、うまくいく場面を合わせて予想し、授業の中で生かすことを目指した。

前述の小学1年生児童について、国語の「うみのかくれんぼ」において予想される姿を記述したものが以下である。

#### 予想されるつまずきの場面・うまくいく場面

- 文章を読んで順番を考えたり、説明の仕方の工夫を文章から探したりするなど、文章と向き合う活動では、途中で飽きてしまう可能性がある。
- 興味関心のある海の生き物と説明文の文章を結び付けていく活動を工夫しないと、単元の目標である事柄の順序や文章構成まで達成は難しい。
- 海の様々な生き物の様子を示すことで、興味関心をもって活動には入ることができる。
- 知っている生き物が隠れている場所を見つけたり、その方法について図鑑を使って深く調べたりすることができる。

図2 予想されるつまずきの場面・うまくいく場面の例（小1国語「うみのかくれんぼ」）

#### (3) 全体での指導のポイントと個別の支援

予想される子どもの姿を踏まえて、指導のポイントや支援方法を検討する。その際、全体で行う指導のポイントと、その子どもに個別に行う支援の両方を記載することとした。

#### 指導のポイント

##### 全体における指導

- 海の様々な生き物の様子について、視覚資料を中心にして、文章表現に結び付けるようにする。鰹
- 「説明の順番」に注目できるように、「問い」との関わりに気づかせる補助発問をする。魚
- 文章構成が統一されていることで、同じ流れで分かりやすいだけでなく、その構成が「問い」に基づいていることにも意識できるよう、「問い」に戻す切り返しの発問を入れる。魚

##### 個別の指導

- 文章を読むことに抵抗なく取り組めるよう、ゲーム感覚で読を活動が必然的に行われる展開を入れる。
- 内容を読み取る活動においては、ペア活動等を取り入れ、話す場とセットで設定することで、友達の手助けを上手く得ながら活動できるようにする。魚
- 意見を整理する時間をとることで、内容理解を促すようにする。
- 同じ活動でも、個人やグループなど展開にテンポを持たせ、机間指導中の声掛けを行うことで、短い集中中でも意識的かつ持続的に活動できるようにする。

図3 指導のポイントの例（小1国語「うみのかくれんぼ」）

### 3. 実践事例

「すくすくUDシート」を活用して行った授業の事例を整理し、実践事例集を作成した。理科の事例の1つを次ページ以降に示す。

### 4. 研究の成果と課題

本研究の成果と課題について、3つの視点から示す。

#### (1) 教員の指導力の向上

- 研究をとおして、授業づくりの視点が教師側から子どもに移り、子どもにとっての学びやすさを追求した授業を行おうとする教師の意識改革につながった。
- 「つまずきの改善」のための指導だけでなく、「強み」を生かした指導の有効性が実感できたことから、個に応じた指導に対する教師の意識の変容が見られた。
- 今後、教員が主体となってアセスメントを進めることができる必要がある。

#### (2) 児童の変容

- つまずきだけでなく強みを生かした学習により、参加、活動の場面が増え、学習に対する自信や意欲につながった。
- 自分に合った方法を選択したり、多様な考えを認め合いながら学んだりする学習スタイルが身についてきた。
- 対象児の個別の目標達成が教科目標の達成につながるような「できた」「わかった」の経験を積み重ねていくことが必要。

#### (3) 普及・啓発

- 各種シートや事例集、リーフレット等を作成することができた。今後さらに他の学校や教員へも広めていく必要がある。

令和2年4月1日 受理

情報を聞いたり理解したりすることが苦手な4年生

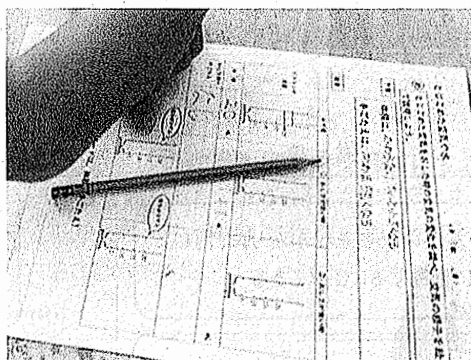
生徒のプロフィール

Eさんはやるのが分かると進んで取り組みます。好奇心旺盛で理科の実験も大好きなのですが、難しいと取り組む前に諦めたり、間違いを心配して動けなくなったりしてしまいます。

| 強み  | 弱み   |
|---|--|
| <p>○ヒントがあると、それを基に答えを導き出すことができる</p> <p>○視覚情報があると、学習が進みやすい</p> <p>○友達と学習することが好き</p> | <p>▲多くの情報を一度に聞くことが苦手（聞く）</p> <p>▲抽象的な言葉や説明の意味を理解することが難しい（推論）</p> <p>▲実験の結果を考察することが苦手（推論）</p> |

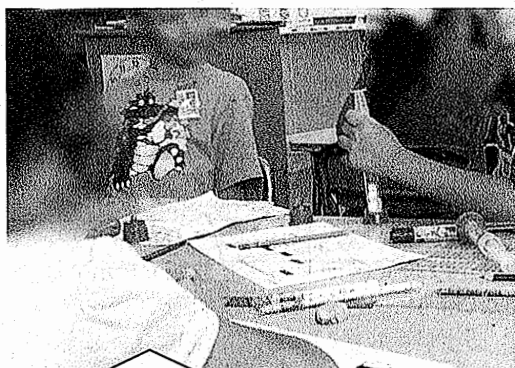
指導の実例

|  |   |   |
|--|---|---|
| 4年 理科                                      | 「閉じこめた空気や水」閉じこめた空気を押したときの空気の変化を調べ、空気の様子を絵や文で説明しよう   |   |
| 学習のポイント                                    | <p><b>○強みを生かす場面</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実験の手順を理解する場面で、視覚的な補足があれば、理解できるのではないか。</li> <li>・ 圧縮された空気の体積を理解する場面で、空気を視覚化させれば、理解できるのではないか。</li> </ul> | <p><b>▲予想されるつまづきの場面</b><br/>(推論・聞く)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実験の方法や手順を理解する場面で、複雑な方法や複数段階の手順を理解するのが難しく、実験に取り掛からないのではないか。</li> <li>・ 実験の結果を考察する場面で、「分からない」言って考えることをあきらめてしまうのではないか。</li> </ul> |
|  | 指導のポイント   | <p>①実験方法や手順を図で簡潔に表す。</p> <p>②書画カメラを使って教師が実験方法を実演して示す。</p> <p>③マシュマロを使って注射器の中の空気の圧縮を視覚化する。</p> <p>④友達と一緒に実験や考察を行う。</p>   |
| <b>本時で目指す子どもの姿</b>                         |   |   |
| ◇ めあてや方法を理解し、実験することができる。さらに、結果を記録することができる。 |   |   |



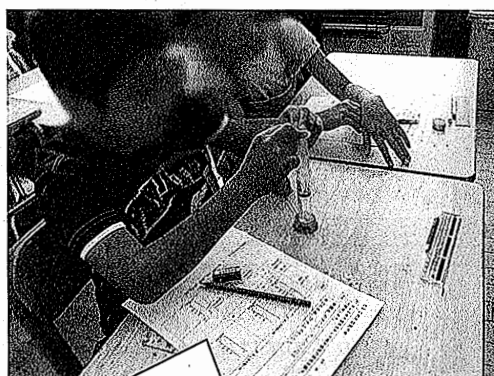
「手順や実験方法を理解させるための板書や教材の工夫」①②

実験方法を実演したり、図で示したりすることが本児にとって分かりやすかったようで、興味を持って聞き、やり方を理解して実験に臨んでいた。



「目で見て分かる学びの工夫」③

目を輝かせながら教師の実験に注目していた。「本物のマシュマロだ」と大変興味を持ち、率先して実験に取り組んでいた。**実際にマシュマロの大きさが変わる**のを目にし、驚きの声を上げ、具体的にイメージできている様子だった。



「友だちと一緒に考察するペア学習」

④

**ペア学習形態**をとることで、安心して分からないことを「分からない」と聞くことができた。友達の考えを参考に自分の考えをまとめる形態が本児に合っていた。

さらに工夫してみたい指導のポイント!

☞ 分かると自信をもって活動できるようになりました。教師が一度に多くのことを伝えようとすると表情が曇るので、順を追って内容が理解できるような板書を心掛けていきます。



# Teaching in Accordance with Learning Difficulties of Children with Possible Developmental Disabilities

Kiyomi SHIJO, Tochigi City Board of Education and Tochigi Chuo Elementary School